

十九日（とうじゅうくにち）の東京電報（とうきょうでんぽう）に據（すわ）ると、伯國（はくこく）視察實業團（しちゃくじつぎょうだん）長山科禮藏氏（ながやまくわいざうし）は、日本往訪（ほんぱんわうふ）のユナイテッドプレッス記（ユナイテッドプレッスき）者（しゃ）に、「日本實業家（じほんじじぎょうか）は、伯國（はくこく）其の他（ほか）米諸國（べいしょこく）を訪問（ほうもん）することに依つて、益々（ますます）經濟關係（けい済けんけい）の益々（ますます）増進（ぞうしん）するを期待（たいき）するは勿論（ふつう）、世界（せかい）の平和（へいわ）は國際（こくさい）友誼（ゆうぎ）と通商（つうしょう）經濟（けい済）とに立脚（りきゃく）するに於て維持（ゐじ）せらるべきを、事實（じじつ）に現（あらわ）し得るを喜（よし）ぶ」と、語（ご）つた。云ふことである。

白雨晚晴

NOTICIAS DO BRAZIL
 Publicado semanalmente
 Rua Fagundes N. 16
 Caixa Postal H
 Tele. Central, 5695
 S. Paulo, Brazil
 Proprietario e editor
 Seisaku Kuroishi
 Assignaturas
 por Anno 15\$000
 .. Semestre 8\$000
 .. Mez 1\$500
 .. Semana \$500

過ぎないなどと云はれる、同國の此の案は全米聯盟は、加盟各國は全く對等であると云ふ立脚點を置き、加爾國家間に何等かの爭議發生の場合には、直ちに聯盟に届け出で審判部の裁決に依つて解決する、若し相對國直接に解決點を見出しえなかつた場

謹告

◆中發生した椿事の爲腕及び脛を折骨し同乗の機械師は死に命懸の競争だ
◆發動 機なしの飛行機を發明したロツシヤ氏はボリビアのラ・バスでボラール大學開校式に昨年末以來實用にしてゐる該機を操縦して見せた
◆英國 では強力な無線電信局を建設して印度、深圳、南阿等との直接通信を自論見印度でも強力な無線局を設けて英本國深南阿と通信を計畫中
◆破裂 しかけ物分れにならうとした智秘兩國のタクナアリカ問題も米國務卿が割つて入りまあゝと云ふ事に兩國も凡ての保留を捨て、妥協
◆自出 度量がつき相なのを見てこつたボリビアは再び聲を高めてこの妥協會議に仲間入を思ひ立ち運動を始めて曰く伯國や亞國に於ける輿論は皆ボリビア國主張に有利である
◆海牙 會議の行末も心細いが露國側の言ひ分は我等は西歐の資本主義には如何あつても頭は下げないもし聯合諸國と同等條件と自由とを以て
◆商議 し得ざれば斷乎として交渉を打切り之等諸國の勞働無產階級が政府に立迄待つと鼻息は強いが借款成立も望ましくどうやら空威張の體◆勞農 政府はクレムリン宮殿藏置の舊皇室の寶冠を賣拂ふと傳へらる該寶冠は時價金貨で七億留米貨にして三億五千萬弗と計上されてゐる
◆獨外 相暗殺犯人フイツエル及びケルンがバツドコイツセンに近い山上の石塔に潜伏中を嗅き出した警察隊が同所へ逮捕に向ふと犯人等はさかくすと拳銃の響がした警官等が塔へ上ると二人は血に染んで絶息
◆國際 聯盟の大天使會議で愈々黒山國をユーポースラビアに合併する事になつて去る土曜日から正式に歐州の地圖から國名を消される事になる

◇外電一束◇

◆米國務卿來伯

米國では伯國獨立百年祭祝賀と一八七六年の米國獨立百年祭博覽會にドンベドロ二世王が訪問した答禮とを兼ねてヒューズ國務卿を特派使節の派遣を代表して一九一七年佛國の戰場に米國第二旅團を指揮し特殊勳章を授けられたロバート少將が一行に加はる(華府電報)

在は一週間の豫定ださ又同國陸軍長として派遣する事が公式に發表された一行は八月末戰艦搭乗出發りオラニエナーベル公爵(アントン・マリヤ)が率い、アスンギー地方には

社の專賣に移されたに過ぎないのは聖移民數が前年度と等しかつたが退社の氣味がオリーブ樹栽培に適さぬ爲にかうした政策を探つたのである。伯國年々の該油輸入額は別表の五、四二七名のは一九二〇年に比し遙れど云ふ(華府電報)

◆伊國內閣瓦解
連日のファシスチ党活動による騒擾にひいて議會に於て多數黨に駆逐され伊國のルイズ・アクリタ内閣は遂に九日マヌエル皇帝の下に内閣總辭表を捧呈した後繼者に就てはオルラン

ド氏の呼聲が高い(羅馬電報)
支那財政窮極
支那の財政總長は省内官吏全部を免職し同省を閉鎖してしまつた總長は内外新聞記者の質問に答へて曰く國庫は空で鎌一文ない金が出來たら改めて開廳するのだ(北京電報)張作霖は目下の財政状態に鑑み牛莊

ド氏の命令した(倫敦電報)
◆日本軍費豫算
新報紙の報する所によれば年度海軍豫算は經常費一億一千九千萬圓、臨時費三千三百萬圓を計上する(東京電報)

伯國ごオリーブ油
伯國では南大河州でオリーブ樹栽培を始めてゐるがまだオリーブ油を内市場需要に應ずる迄には達しない伯國が未だ前領當時にはオリーブ栽培を禁止された事はないそれで一九四九年に設立された貿易會社が小麥粉葡萄酒干飼と共にオリーブ油の數は増大した

本國政府の専賣だつた事を二私設會六割三分は伯國人であるそして入本國政府の専賣だつた事を二私設會六割三分は伯國人であるそして入

かく大別はされるが、高度や緯度

社の專賣に移されたに過ぎないのは聖移民數が前年度と等しかつたが退社の氣味がオリーブ樹栽培に適さぬ爲にかうした政策を探つたのである。伯國年々の該油輸入額は別表の五、四二七名のは一九二〇年に比し遙

如くで内昨年の輸入額減少は經濟界の危機の爲一般に亘り輸入を極力緊縮した結果である

又海外興業株式會社取扱のイグアペ

地の動靜は、家族在住日本人四九七五、四二七名のは一九二〇年に比し遙

りやが繁れば、アスンギー地方には珈琲が實る。玖馬やニユウオルニアスには比ぶくもないとしても、ゴヤウエンには甘蕉が育ち、ビラリカにはバナナが熟す。

一一番暑さの厳しい地方は、バラナバナマ流域森林地帶及び海帶一帶である。然し汽車か又はグ

ラレオザ車道から、海岸山脈を登る

者は、その登る從つて、氣候の段々に變つて行くのを感じるであらう

左記郵便物は受取人の行先が分らなければ、御見做さる、三等旅客の聖州退出入出數も稍同数を示した即ち一九一三年差萬別である。例へばクリチバ附

為に本國政府が本國の生産界を保護する爲にかうした政策を探つたのである。伯國年々の該油輸入額は別表の五、四二七名のは一九二〇年に比し遙

年七月九日の令第二四〇號で移民員は一六、一九六名で入國數超過一

ある。伯國年々の該油輸入額は別表の五、四二七名のは一九二〇年に比し遙

如くで内昨年の輸入額減少は經濟界の危機の爲一般に亘り輸入を極力緊

縮した結果である

年七月九日の令第二四〇號で移民員は一六、一九六名で入國數超過一

ある。伯國年々の該油輸入額は別表の五、四二七名のは一九二〇年に比し遙

如くで内昨年の輸入額減少は經濟界の危機の爲一般に亘り輸入を極力緊

新人ダン・チオ

集募大者約豫

す復に價正は後切締

正價一部十二ミル（外に送料一ミル）
書は正價金十二釿（外に送料一釿）なるも豫約期間内
釿（外に送料一釿）なれば豫約者は廉價購求の特典本
書の豫約締切期限は七月卅一日にして締切後は直ち
に復すべきは入用の士は前金にて豫約申込本
書發送は来る八月一日より着金順に之を始む

伯利西而所羅波拿
葡萄牙紙墨書方
附文法津用同在

冊一全本美版菊
上以頁百三數紙

NOTICIAS DO BRAZIL Caixa Postal, H S. Paulo.

田舎の青年を戒む
エヂニヤ耕地 獨身者

余はタクアーチンガ驛より四レーダー^アを離れた所に住んでゐるカンボ子アの獨身者である。近來文明が進むにつれて人間生活といふものが向上して來るのは、眞に情はしきことである。然し何等根柢も何もない人達が唯無暗に猿の人真似をして空虚な生活を追ふ事は少しく考ふべき問題であると思ふ。都會の生活を裏面から觀れば實に華かなものであるけれども其の裏面に足を一步入れて觀れば實に慘状眼も當てられぬといふ様な者がある。斯に比べて田舎の生活は、表面は人の眼を奪ふ程のことはないが、其の裏面には大なる安心といふものがある。都會生活を一言いへば虛勢虚榮虛偽の固りである。田舎には其の生活内容に於て毫壘の差があるのにも拘らず、近時田舎のインシャダ損む人にして都會の生活に憧憬して田舎に後に出たるもの、再び田舎に舞戻る様な體裁の悪い失敗をして憂き目を見て居る者が在伯同胞中には決して尠くないのである。成程都會は前にも述べた如く華かなものである。凡ての刺戟も強く活氣も横溢して居る、優勝劣敗といふことも眼に見えて顯はれて居る是を田舎の生活に比べれば大なる相違であるが、これは表面上の觀察であつて、決して其の真相に觸れて居らない。事實その半面に於ける危険と腐敗とは恐らく田舎者の想像も及ばぬ所であらう、それのあるのに田舎の人は都會に行けば濡れ手で糞の金儲けでも出来るやうな考へを起し都會の内情や風氣やも知らず且つ何等の経験の無いのをも顧みずして盲目的に出かけて行つては失敗するのである。つまり金を得んとして出て行つて却て失ふて歸るといふ様な有様であるから目下浮腫になつてゐる所である。つまゝ金を得んとして思ふ。分を守れ而して徒らに都會生活に憧憬する勿れ！

●伊國新聞記者の眼に映じた

伯國の印象と伊國移民

最近伯國視察に來た伊國新聞記者レナト・ラバーレ氏が伊太利へ歸るを云ふ前日往訪のエスターード記者に伯國に依つて得た印象と伊國移民問題に就て語つた要點は次の通りである。ナト・ラバーレ氏が伊太利へ歸るを云ふ前日往訪のエスターード記者に伯國に對して別段纏まつた豫備知識もなく、不正確な觀念を持つて來る總ての歐洲人のやうに、文明程度の高き事に、工業や經濟の發展振りに非常な好印象を受けたと共に、伯國は限り知れぬ未來を有する國である。リオ、サンパウロ、カンピーナス諸市に強く印象されたのはサンパウロの繁盛——尤も私の見聞したのは此の三都市だけではあつたが——に過ぎない。しかし、伯國の發展振りに、其の商業の發展は歐洲に於ける最も豊昌せる都市と、充分四敵し得やうと思ふ。そして之等の開發に對して、此地に活動してゐる伊太利人の功に歸すべきものが、決して少くないと言ふ事實は、私に自分満足する所である。又伊太利移民の問題と云ふ事は、勿論自分の最も興味を持つてゐる問題ではあるが、何分非常なディレクターの問題であるので、此際私が伊太利人として伯國新聞に意見を述べる、と云ふ事は許して貰いたい。然しごとに就ては伯國的に解決する事は、伯國にとつても伊國にとつても最も重大であり、その対しで容喙する資格はない、然し私の思ふ一致點に到達する第一條件は新しい現代の思想精神を以て調査する事である。

今日の伊太利移民は、十年前のそれと全く同じではない、我國の地方作、其他社會的、衛生的、經濟的要求、耕

一變して、異状なく向上をした事は、学者等は、此の現象を以て、火星面にある植物に依つて、蒼白の強光を

である。だからもし善良な移民を絶放射するのだとしてゐる。一九〇九年のかうした現象の起つた時、フオ

民に求むるに違ひない、と信するは失業伊國勞働者が、救濟の途を移出

えず招かうとするには、此の點を否認する事は出来得ない、と共に他方、

亦誤りである、何故なら我國の失業者は工業勞働者である、そして伯國

國は其等工業勞働者に對しては何等利益を提供してはゐないからである。或

ど給料の中から、百ミルと云ふお金を地方農民は伊太利國內で容易く割り立てゝ、農夫をして殆ど工業勞働

者に變更してしまつた、かくて農業

博士が語つた。

▲此の蒼白の光は、時として非常に強く、よく晴れた空氣の澄みきつた夜など半時間も一時間も、観測鏡を

へ雲隠れした保次郎はさう連てを求めて何等の影をも認める事もなくめたか、折柄リオ滞在の百年祭博士が語つた。

灰色の空 (三)
丘の人の人

『私は獨りではないか? 私の好む氣儀な所に自由に訪れたつて誰に憚る處もない筈だ』と思ふ遠く後から『おと眞暗でしかも出口には大きな岩が前は小娘ではない、お前は寡婦ではないか』と理性的の制止する喝かきこえものだつた、日曜日や祭日に美しいう着飾つて遊ぶ娘達の無邪氣な姿を見度彼女は今さらの如に運命の呪咀を恨まずにはあられなかつた。

『運命! 左様だ、運命の先端は如何様な處に偶然潜在してゐて其のデリケートな作用に因つて其の端緒を擴大するものか知れない……私がまあかりに戀を知り過ぎてゐた、其れだけ恋愛に忠實だつたのか知れない? ブラトニックな戀を尊重し、其れを経験した、此の私、あゝその私か當然受く可き此れが結末なんだらか?』日の姿が明瞭と心の鏡に映た。『自然それは以前のHではなかつた。あれ程固く契つたのに……私は、幻影のやうな戀を追つて其れを實際化さうと努めたのだった、何んと云ふ思ひたらふ……私は寡婦ではないか幾程私は處女の如な純な愛を捧げたつて矢張りHは私に寡婦追想にのみ過去の處女を許されるのだらふか?』現在の生活に光明も希望も少しあり、黒い幕で其の身邊を包圍まれるやうに想はれてならなかつた。裏の森は黒縁のやうに濃く彩配がした、彼女は徐に身を起して窓の手を開いた。何時しか四邊は黃昏れて向ふの林は黒縁のやうに濃く彩られた灰色の空から矢張りすくと黒く焦げた籠の葉が降つてゐた。

『さう、ちやヘンリケ、お前妻と一緒に彼まで行つて頂戴。』『でも、どうして一人で行かないん夫の寝轉んでゐた長椅子のそばへり合點が行かない、もつとハッキリです、彼の男に向ひ合つて、胸を悪寄つたマルビイナは、いつもの調子とダツと異つて、震を帶びて云つた(完) 五三六四

灰色の空 (三)

不思議の指輪 (六)

小供の世界

松本高信

下しました。外にはお月さまが上つたと見えて、巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

轉つけてありました。

『オヤツ!』

又叫びました。

それは書間貴つた指環が膝の上に載

未完のまゝ筆を搁く。折があつたら

詩と生命について書かしてもらおう

と思ふ。(終り)

と太郎さんはドカリと岩の上に腰を下しました。外にはお月さまが上つたと見えて巣間から月の光りが明るく渡て参りました。そして太郎さん

汽船の入り来る

まわりました。

『お家ではさぞお母さんやお父さん

が待ておられるだろう』

思ひ乍ら涙のまづてた眼を膝

の上に落すと太郎さんは

日本近信
南米視察團の成立
移殖民並に放資問題も研究す

南米ブルジル獨立百年祭を機会に我半殖民地が三千三百戸残りの二千五戸は一時的移民に過ぎない而しが邦から實業家の視察團を組織派遣するここに就いては首相農相の肝煎にて之れが

▲組織委員に井上日銀總裁、和田豊、藤山雷太、馬越恭平、藤瀬政次府の希望を満すには甚だ足りぬ状態

▲為しつゝあるは海外興業のこの特に纏つた土地を買ひ殖民を

▲六萬町歩二千五百人位で彼地州政府の希望を満すには甚だ足りぬ状態

日本近信

利の土地放資がないとしても關係實業家をしてその實際を見せしめ確實な信念を以て事に當るやうせしむる

業家をしてその實際を見せしめ確實な信念を以て事に當るやうせしむる

三犯稻葉さだ子(一)外四十名を引捕

六月七日午前一時岐阜縣郡上郡白鳥

吳服商清水久之助方より出火し折柄

如く赤坂区内を暴らし廻り通行人の北風に煽られて金品を捲き上げては遊蕩に耽つてゐたものである

戸を焼失したが原因は竈の不始末で

あるこ類焼家屋中には大商店多く百

二十八銀行美野町銀行郵便局なども

焼失した

福島縣の火事

過業郡會議員佐久間佐一郎方から五

月十九日午前十一時頃發火し西南の

烈風に四方に燃え擴がり同部落五十

命した梁士詒氏等に對する張作霖氏等の

重要用件を齎して居るのはない

かと頼る注目されて居る

此女行動に就き或は襲に内地に亡

命した梁士詒氏等に對する張作霖氏等の

岐阜の大火

六月七日午前一時岐阜縣郡上郡白鳥

吳服商清水久之助方より出火し折柄

如く赤坂区内を暴らし廻り通行人の北風に煽られて金品を捲き上げては遊蕩に耽つてゐたものである

戸を焼失したが原因は竈の不始末で

あるこ類焼家屋中には大商店多く百

二十八銀行美野町銀行郵便局なども

焼失した

福島縣の火事

過業郡會議員佐久間佐一郎方から五

月十九日午前十一時頃發火し西南の

烈風に四方に燃え擴がり同部落五十

命した梁士詒氏等に對する張作霖氏等の

重要用件を齎して居るのはない

かと頼る注目されて居る

此女行動に就き或は襲に内地に亡

命した梁士詒氏等に對する張作霖氏等の

重要用件を齎して居るのはない

かと頼る注目されて居る

此女行動に就き或は襲に内地に亡

命

独立百年祭を期して

米國から飛行機でリオへ

◇米國民の祝賀文を持つて飛來

米國の飛行家ヒントン氏は、来る九月七日の伯國獨立百年祭に、米國民の伯國への祝賀文を携へて飛行機でリオへ飛ばす計画を立てた。氏は最近往訪のユナイテッドプレッス記者に語つて曰く

▲米國海軍式双動力の水上飛行機で飛ぶのである。八月初めに紹育を出發して、九月七日にリオへ着かうと思つてゐるが此の飛行はまだ米伯親善の一象徴である。そして米國政府並びに國民から、伯國政府及び伯國民への、祝賀文を持つて

文使ひとなりうると思ふ」と此の飛行には紀行記者活動寫真撮影技術者無線電信手と二人の機械師及び其他の旅客を

▲同乗させて来る筈下、途中全部の活動寫真を撮影し、從つて速力に重きを置く飛行でないので、諸方寄道をしまナウス市へも寄る筈である。

▲その飛行中間断なく、陸上局との通信する事が可能であると、尚ほ同飛行家は、紐育リオ間の飛行時間を

嘗つて米國飛行家が、太西洋横断旅行に用ひたものと同型のものであると云ふ、又同機の無線電信機は、極めて強力な電力を有するので

▲その飛行中間断なく、陸上局との通信する事が可能であると、尚ほ同飛行家は、紐育リオ間の飛行時間は九十時間と計上してゐる、旅程は

月一日出發し下陸休養地は、チャーチストン、ナツサウ、ポートオウブ

リーンス、サンファン、フォルトデナル、パライバ、ベルナンブコ、バ

イアを経てリオ着の豫定。

●マツトグロツリ降参して

四海波静に納まる

さしものマツトグロツソの反亂軍隊も、立ち立れた士儀に勝はなく、頼みにした南大河も、煙の出ないうに意揚揚らす、而も總大將に渡伯思出多い故國の獨立百年祭

●獨立百年祭祝典に伯國舊皇族參列

カステラ、デエウに居住の伯國の舊持たせる事なし聖州政府へ向けアン

トス市の同證明署で必要印紙代無

號で渡伯思出多い故國の獨立百年祭

●春日副領事内地巡遊

◇江越農業技術も共に

當市總領事館春日副領事は、江越農業技術同僚昨廿日州内アラ、クアラ、タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

に参列し祝典後は再び歐洲へ歸る由

で滯伯中はヘトロボリスの昔の所有

邸へ入る筈で目下萬端用意中だと

運動界

カド、ラッバ對北米人との野球試合は日本人側第一回で日本側第二回で

六回で日本側は第八回に各一回宛を入

て同點となり第七回に四點を各一回

で八點となり遂に十對八にて日本人側の貞は

惜しかつた此日双方全力を注いで戦つたので

力の入った面白試合だったが最後に日本人側

で三十三にて引き分けとなつた

ミカド運動俱樂部へ寄附金五十ミルノエス

アラスカ、ビラシカバに農學校

アラスカ、マツトンカンブイより旭

日本實業會社よりうれしく寄附

齊藤龍等のムランセット等があつた又は

六回で舉行されたミカドラップ、野球試合は十

點第三回に一擧五點を得最初甚だ優勢なりしな

て米人側もヤツキとなり第六回迄に六點を得

てだらぬ失策あり得點すべきを逸したのは残

念々々此日日本人側打撃も相當に振ひ前原

六回で英獨人共同で千數百アルケ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

で英獨人共同で千數百アルケ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

で英獨人共同で千數百アルケ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

で英獨人共同で千數百アルケ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

タシオ大統領カテソ宮の奥に、グ

ラムベラ湖の水鏡、浮ぶ真帆片帆に

大石內藏之助

半井桃水

が、其の儀はお許し下さりませう』

婦人

ますまい、ですから所謂愚鈍な生徒
と呼ばれてゐるが、實は『大頭』の父

大阪商船會社着發廣告

『原殿唯今のお言葉、父長助へ申聞
けましたら、嘸かし安堵致しませう。
御承知通り父は病中、一入心に懸り
まするので、明けても暮れても其の
事ばかり、申し續けで居りまする』
と右衛門七も愁眉を開けた。

面の外御座りませぬ、お城明渡し相
済むを待ち、何事も扱て置き、私當
地へ参りました跡。赤穂住宅の取片
付け、妻に任せ居りまするゆゑ、今
もまだ國許の恩弟が家に留まり居り
ます。

『今度は七郎左衛門が驚いた。『ナニ、御當家へ仕へる事は、あの不承知と申すのか、そりやまた何故だ』な、サ、その譯を承はらう』と七郎左衛門は拳を固めて、双膝に突立たれ、『チト思ふ仔細御座りまして、三平再び主取りは仕りませぬ』『素より仔細がなうては叶はぬ、この仔細を言へ、聞かう』と一句は

婦人欄

◆彼は光輝ある絶友よりはずつと
からそろくと働き出して其智力
保持してゆきます、此意味からし
近代の子供達は「愚鈍」と云ふ賜に
して充分感謝していく筈なのである
小供の智力と云ふものは横へそよ

KA SHOSEN KAI

シアトル丸
 北米バナマ經由
 機濱、神戸行き
 リオ港發八月十四日
 サントス發八月十一日
 日本ヨリ
 リオ港着 八月七日
 サントス着 八月九日
 同詳細は左記へ御問合せ被下候
 Antunes dos Santos & Co.
 São Paulo :— Rua José Bonifácio, 17

「御承知通り父は病中、一入心に懸りますので、明けても暮れても其の事ばかり、申し結けで居りまする」
と右衛門七は愁眉を開く。
「御病中の父上、御心配ないやうに申有め置かれるが好い、時に病中と言へば小島氏も、長く頗ひ居るとの噂、昨今如何の容體で御座らうな」
『小島氏病氣の由は、承はぬでも御座りませぬが、忠不義の大野藤井が、姪を妻とする同人、何となく面白からず』
『我々當地へ参つた後は、絶交も同然、遂に一度お専ね申した事も御座りませぬ』と平左衛門、右衛門七はいふ。
『菅野氏は親しい間、定めて様子も知つて御座らうの』
『仰せの通り拙者奴は、年來小島と莫逆の友、御因縁以來、大野藤井が振舞を見て、是非その妻を去るようにな小島へ申入れましたか、大石殿思召をもつて、離別に及ばぬこのお申聞り、殊に小島は志ある者と、堅く見込み居ります故、三日に掲す言訶れて、容體を見舞ますが、何を申すも不治の難病、不便な者に御座ります』と三平は眼をしばたぐ。
『大石殿にも小島が妻は、叔父とも似す健氣の魂魄、決して隔意ないやうにど、けんへんも申し居られたされば拙者も尋ねたいと存じながら、今に無沙汰まかり在る、橋本氏矢頭氏も、必ず疎外致されまいぞ』と惣右衛門は宥め論した。
『そのお言葉を伺ふ上は、折々お尋ね申しませう』と平左衛門・右衛門七は快よく諾うた。惣右衛門はまた三平に向ひ、
『健氣の魂魄で思ひ出したは、菅野氏の御家内、大石殿には殊の外、賞讃して御座つたが、矢張り芝村へ伴はれたか』
『不束者の妻、お噂を蒙つては、赤

◆過勞の小供は不幸

シアトル丸
日本ヨリ リオ港着 八月七日
横濱、神戸行き リオ港發八月十四日
向詳細は左記へ御問合せ被下度候
Antunes dos Santos & Co.
S. Paulo :-- Rua José Bonifácio, 17
Santos:-- Rua 15 de Novembro 167
Wilson Sons & Co. Ltd.
Rio de Janeiro :-- Av. Rio Branco 37
本郵船會社船出入廣告
次の便船は追て發表
御用の方は左記へ御照會被下度候
アンツ一ネスドス、
サンントス會社
Cais Postal, 237
Rua José Bonifácio 17,
S. Paulo
日本金に引直相場は當分伯貨三ミル五
五十レースにつき日本金壹圓
日本内地之便爲替料、書留料、手續て
店に於て貰得いたし即ち全
て御船里の受取人へ送り届け候
金子は現金封入、郵便爲替又は銀行小
手にて當店へ御送り被下度猶は横濱正
銀行勘定として Banco Commercial do P
tado de São Paulo 御拂込被下度候
差支無之候
何れにしても送金申込必ず忘れず
當店へ御送り被下度
本貨定期預金利息 六ヶ月以上 年六分
定期預金利息 六ヶ月以上 年四分五
實資座預金（小口） 年四分
實資座預金（大口） 年五分
是用紙は御請求次第直に御送り可致御不
御遠慮なく御問合せ被下度候
御用紙は書留郵便にて御送付可申上候間御
除最寄郵便局御指定相成候は御便宜に

伯刺西爾時報社

告白の様式は別段困苦しく一宣致候得。其種類を二段、一段、半四分の一の四種とし、左の料率にて御注文に可應候間御希望の御申込には料金を添へ来る。八月十日でに御申込被下度候。
と御申込は顧客名、會社名、組合名、店名などを問はず、顧客名には必ず「親伯年賀」を御記入願上候。
金四拾五針二段
金貳拾五針二段若くは
金拾參針(半段若くは二段四分の一)
金八針二段八分の一若くは

**ANTUNES DOS
SANTOS & COMP.
AGENTES DAS COMPANHIAS
NIPPON Yusen Kaisha**

御用の方は左記へ御照會被下度候
アンツーネスドス、
サン・トス會社
Caixa Postal, 237
Piso 1º, Lado Pacifico, 17

BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA, LTD.
(THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.)
Rua da Candelaria, No. 23
Caixa Postal 380
Pernambuco

リオ・デ・ジャネイロ

横濱正金銀行支店

◆日本貨定期預金利息（年四分五厘）

◆預送金用紙は御請求次第直に御送り可致御不の點は御遠慮なく御問合せ被下度候

◆預金通帳は書留郵便にて御送付可申上候間御込の際最寄郵便局御指定相成候は御便宜に

三、金子は現金封入、郵便爲替又は銀行小手にて當店へ御送り被下度猶は横濱正銀行勘定として Banco Commercial do Estado de São Paulo へ御拂込被下候て

差支無之候

四、何れにしても送金申込は必ず忘れず當店へ御送り被下たく

金預

日本貨定期預金利息（年四分六厘）

伯貨當座預金（小口）



リオ・デ・ジヤネイ

橫濱正金銀行支店